概要

Coupa は、アカウント構造の周りにかなりの機能を構築しました。「アカウント」という言葉は、さまざまな人にとって多くの異なることを意味します。GL コード、請求先アカウント、プロジェクト、コスト センターなどと呼ばれる場合があります。会計構造は、システムにとって非常に重要な設定ステップです。企業は、財務システムと同じ構造をクーパに持つことをお勧めします。3 セグメントの GL 構造がある場合は、おそらく Coupa にも 3 セグメントを持つ必要があります。複数のブックセットを実行する場合は、Coupa でそれぞれをセットアップできます。以下に、会計構造がクーパで駆動できるシステムの異なる領域を示します。

承認

多くの企業では、承認を管理するために管理階層を使用しています。管理階層は、レポート関係によって承認が駆動される場所です。たとえば、トミーの要求は常にサリーに送られます。

代わりに、承認が部門またはコスト センターに基づいている場合は、Coupa の承認チェーンを使用します。たとえば、ボブは原価センタ 100 と原価センタ 200 のメグを担当し、要求は、どの原価センタが要求に関連しているかに応じて、ボブまたはメグにルーティングされます。部門やコスト センターのようなものは、会計文字列を構成するセグメントの例です。

予算

予算明細行は、クーパの勘定に関連付けられています。予算期間を作成するときに、予算を作成するセグメントを選択できます。完全な勘定文字列 (たとえば、原価センタ-GL -経費タイプ) に対して予算を作成するか、または文字列の部分セグメント (原価センタ) に対して予算を作成することができます。予算明細行は、関連付けられた勘定コードに対してトランザクションが作成されるとヒットします。

プロジェクトの管理

Coupa を使用してプロジェクトを管理し、それらに対する支出を追跡する場合は、次のオプションがあります。

* ユーザー設定フィールドを作成し、プロジェクトに対して支出を追跡します。ユーザーは、要求を作成するときに、そのユーザー設定フィールドからプロジェクト番号を選択できます。
* 勘定構造のセグメントとして追加します。

2 番目のオプションでは、エンド ユーザーは要求を送信するときに適切なプロジェクトを含むアカウントを選択します。プロジェクトに基づいて支出レポートを生成できるだけでなく、予算明細行を作成して、プロジェクトの予算を追跡できます。また、プロジェクトに特別な承認を与えた場合は、アカウント文字列とカスタム フィールドに対する承認ルーティングを実行できます。

レポート

Coupa は、システム内のさまざまなトランザクション オブジェクト (要求、発注書、請求書) に対してカスタム レポートを実行する機能を提供します。レポートをカスタマイズして、アカウント情報のデータをフィルター処理する条件を含めることができます。たとえば、特定の部門または原価部門のすべての請求書を表示する必要がある場合、部門または原価部門セグメント別に請求書データをフィルター処理する条件を作成できます。

統合

概要の段落で述べたように、Coupa アカウント構造は、金融システムの構造を模倣することをお勧めします。これは、Coupa を財務アプリケーションと統合する場合に特に重要です。取引が Coupa から金融システムに流れ込む場合、取引が金融システムの正しい勘定コードまたは請求コードにマップされるように、勘定構造で完全に一致させる必要があります。

将来の機能

Coupa プラットフォームの拡張を続ける中で、勘定科目表とアカウント設定によって機能を推進していきます。たとえば、組織がアカウント別に一部の購入画面へのアクセスを制限できるようにする計画を立てます。